

Origin ソフトウェア

バージョン 2025.20

12月 2025

このリリースのSpectra[®] Geospatial Originソフトウェアには、次の変更が含まれています:

新機能および機能強化

プロジェクト中心のワークフローの簡素化

Origin2025.20では、システムをよりプロジェクト中心に構築し、プロジェクトとデータの管理手法をよりシンプルにしました。このアップデートの中心となるのは、プロジェクトの座標系、単位、特徴ライブラリ設定を構成できる機能です。新しい**プロジェクトデータ**ページは、プロジェクト内のジョブで共有されるすべてのファイルを一元管理できる便利な場を提供します。このアップデートにより、プロジェクトのセットアップ、ジョブ作成、設計ファイル管理が容易になり、一貫性を高め、現場、クラウド、オフィス間のデータフローが改善されます。

プロジェクトレベルでジョブ設定を構成

プロジェクトレベルで座標系、単位、特徴ライブラリ設定を定義できるようになり、プロジェクト設定から新しいジョブを簡単に作成できるようになりました。これらの設定は、Trimble Connectで作成してコントローラにダウンロードしたプロジェクト、またはOriginで作成したプロジェクトに対して定義できます。初期設定では、ジョブを作成するとプロジェクト設定が使用されてジョブが作成されます。これによりプロジェクト全体の一貫性が確保され、整準誤差が最小化されます。必要に応じて、テンプレートやjobXML、DCファイルからジョブを作成することも可能です。

プロジェクトデータ管理

プロジェクトデータ管理を支援するために、さまざまな改善が行われています:

- **新しいプロジェクトワークフロー**では、OriginにおいてTrimble Connect、ローカルフォルダ、またはコントローラ上の別の場所からプロジェクトにファイルを簡単に追加できるステップが含まれるようになりました。
- プロジェクトを開くと、プロジェクト画面にプロジェクト内のジョブを一覧表示する**ジョブページ**と、新しい**プロジェクトデータページ**が表示され、プロジェクトのジョブで使用可能な設計ファイルを簡単に管理できます。**追加**をタップすると、Trimble Connect、ローカルフォルダ、またはコントローラ上の別の場所からファイルを追加することができます。また \otimes をタップすると、不要なファイルを非表示にしたり、プロジェクトデータリストを整理したりできます。
- **レイヤーマネージャ**では、**ポイントファイル**と**マップファイル**タブが統合され、**プロジェクトデータ**タブになりました。**プロジェクトデータ**タブを使用すると、開いているジョブで使用するプロジェクトデータファイルを選択し、ファイル内のデータを選択可能にするかどうかを制御できます。
- Trimble Connect内で**TrimbleAccess.ProjectFile**タグが付けられたファイルは、プロジェクト内のすべてのユーザーのコントローラに自動的にダウンロードされ、オフィスから現場へのワークフローが効率化されます。
- **プロジェクトデータ**ページにTrimble Connectから追加されたすべてのファイルは、Originにサインインしている限り常に最新の状態に保たれます。
- **プロジェクトデータ**ページのローカルファイルは、アップロードアイコンをタップすることでアップロードできるようになり、準備ができた時に手動でクラウドにアップロードできるようになりました。この変更に伴い、**関連フ**

イルをアップロード設定は廃止されました。

- Origin(TTMファイル) で作成した地形面は、他のプロジェクトデータとともにクラウドにアップロードされ、Trimble Connect Field Data拡張機能で表示できるようになりました。

ジョブワークフローの改善

ジョブステータスの更新やジョブデータのクラウドへのアップロード時のソフトウェア動作が改善され、更新がより見やすく直感的になりました:

- **自動ステータス更新**

測量を開始すると、ジョブのステータスが自動的に**進行中**に設定され、ジョブがクラウドプロジェクト内にある場合は、自動的にクラウドにアップロードされてTrimble Connect Field Data拡張機能で確認できるようになります。

- **インタラクティブなステータス制御**

また、**ジョブページ**でジョブ名の横にあるジョブステータスアイコンをタップして、ジョブのステータス(例:**進行中**や**現場作業完了**)を変更できるようになりました。

- **新しい終了ステータス**

ジョブのステータスがTrimble Connect Field Data拡張機能で**終了**に設定されると、Originはコントローラからジョブを削除するかどうかを確認します。これによりデバイスのストレージ容量が解放されます。

ジョブフィルターの改善

ジョブページで利用可能なフィルターを簡素化し、クラウドプロジェクトで多数のジョブを絞り込む際のパフォーマンスを改善しました。選択できるフィルターは次のとおりです

- **クラウドジョブ:「すべて」**はクラウド上のすべてのジョブを表示します。
- **クラウドジョブ:自分に割り当て** - サインインしているユーザーに割り当てられたクラウドジョブのみを表示します。
- **クラウドジョブ:「ステータス:終了」**は、ステータスが「**終了**」のジョブを表示します。

GeoLockによるGNSS 追尾の強化

GNSS補助型Autolock®である新しいターゲットロックモード**GeoLock™**が追加されました。**GeoLock**は**GPSサーチ**に代わるもので、すべてのAutolock対応機器で利用できます。**GeoLock**により、機器のターゲット追尾が大幅に改善され、生産性が向上します。主な機能は次のとおりです

- **ターゲットの再捕捉が容易**:再設計された**ターゲット制御設定**ページにより、どのような環境でもターゲットへの再ロックが容易になりました。
- **予測追尾**:ロックが失われた場合でも、機器は同様の速度で回転を続け、Autolockが自動的にターゲットに再ロックします。予測追尾でターゲットに再ロックできなかった場合、次の自動動作を選択できます
 - **GNSS追跡**:高精度GNSS位置を持つ受信機を使用する統合測量では、機器が直接ユーザーの位置に向き、ターゲットにロックします。多くの環境では、GNSS精度が低くても良好に動作します。
 - **検索**:GeoLockはGNSS位置に向いた後、自動で検索を行います。Trimble Accessは位置精度を監視し、鉛直精度が十分な場合にのみ垂直方向に回転します。
 - **ジョイスティックを表示**:機器がGNSS位置に回転し、微調整用のジョイスティック画面が表示されます。木々の間などGNSS環境が厳しい場合に便利です。また、**ジョイスティック画面**から直接**検索オプション**にアクセスすることもできます。ロックが再取得されると、**ジョイスティック画面**は自動的に閉じます。

後方交会法のポイント用途オプション

用途グループボックスがポイント詳細画面に追加され、交会法の解に使用するポイントをより簡単に管理できるようになりました。新しい観測用途フィールドで、そのポイントを計算に使用するかどうかを選択できます。選択肢は後方交会法に任せる、有効、無効です。

ユーザーエクスペリエンスの向上

- 数千件のジョブを含むクラウドプロジェクトでも、**ジョブタブ**の読み込み速度が大幅に向上し、より快適に操作できるようになりました。
- また、数千件のジョブを含むクラウドプロジェクトで作業していて**現在のプロジェクトを自動的にアップロードする**が有効になっている場合、Originの応答性も大幅に改善されました。
- **レイヤーマネージャ**にプロジェクトデータを追加する際、Originファイルブラウザでのデフォルトの場所は、常に最後に使用した場所が選択されるようになりました。これまでのバージョンでは、サインインしている場合、Trimble Connectが初期設定の場所になっていました。
- **マップ設定画面**で**ダークモード**を有効または無効にしても、ソフトウェアが再起動しなくなりました。

特徴ライブラリファイルの自動属性

Origin2025.20では、Feature Definition Managerを使用して作成された特徴ライブラリファイル内の特徴タイプに追加された自動属性がサポートされるようになりました。

ジョブ内で特徴を計測または操作する際、その特徴タイプに割り当てられた自動属性が、測定済みポイントや計算データから自動的に入力されます。利用可能な自動属性は次のとおりです

- **ポイント**: 北距、東距、高さ、緯度、経度、高度
- **ライン**: 長さ
- **ポリゴン**: 周長、面積

これらの属性はOriginおよびTrimble Business Centerでは読み取り専用です。ポイントまたは特徴が変更されると値が再計算されます。

ポイントとラインで同じコードを使用

ポイント特徴とライン / ポリゴン特徴の両方に同じコードを使用できるようになりました。

例えば、パイプに対してポイント用のPIPE_JNTと線画用のPIPE_Lの2つのコードを使用する代わりに、両方に1つのコード(「PIPE」)を使用できるようになりました。

仕組み:

- **特徴ライブラリ内**: 同じコード名(例: PIPE)で2つのコードを設定し、1つをポイント特徴(シンボルと属性付き)、もう1つをライン特徴(ラインタイプと属性付き)として設定します。
- **現場**: そのコードを使用すると、最初にポイント特徴、次にライン特徴の入力が求められます。適切なシンボルとラインタイプが自動的に適用されます。この変更により、コードライブラリがシンプルになり、現場でのデータ収集がより迅速かつ直感的になります。

設計標高の測定

壁の線などの物理的なポイントまたは参照から設計高度を直接測定できるようになりました。これにより、手動で標高を入力する代わりに正確かつ効率的に作業することができ、特に建築工事プロジェクトに役立ちます。このオプションは、トータルステーションをDRおよびプリズムモードで使用する場合、またはGNSS受信機を使用する場合に利用できます。

関連ファイルや背景図内の項目からポリラインやポリゴンを編集

関連ファイルまたはウェブフィーチャサービス(WFS)内の単一のポリラインやポリゴンを編集する際、選択されたポリラインやポリゴンは自動的にジョブにコピーされるようになりました。Origin 2025.10では、編集する前にタップ&ホールドメニューの**選択から作成オプション**を使用してポリラインやポリゴンをコピーする必要がありました。

選択から作成オプションは、マップ上でリンクファイルやWeb Feature Serviceから複数のポイント、ポリライン、ポリゴンを選択した際に、それらをジョブにコピーするために引き続き利用できます。

強化された線画作成

Origin2025.20では、**ライン上のコードを含むポリラインを保存オプション**を使用することで、特徴コード付きの線画を作成する際の柔軟性が高まりました。

- これまでに加え、**ポイントの測定**や**地形測定**を含む特徴コードの使用時には、コードをライン上に直接保持したポリラインやポリゴンを作成できるようになりました。
- **ヒント** - 既存のポイントのみを使用してラインやポリゴンを作成する場合は、測量を開始したり、機器やGNSS受信機に接続したりすることなく、**測定コード**を使用できます。測量スタイルを選択し(新しい点を測定しない限り使用されません)、**測定コード**を開始します。ラインやポリゴンコードを使用している限り、既存のポイントを選択して線画を作成できます。Spectra Geospatial**測定コードオプション**画面で**シングルタップ**で**測定設定**を無効にすることを推奨しており、これにより複数の既存点をより簡単に選択できます。

新しい**ライン上のコードを含むポリラインを保存オプション**は、Originバージョン2025.10で**測定コード用**に導入され、既存点および新規測定点を用いたポリラインやポリゴンの作成・編集を容易にします。ポイントを順序不同で挿入できるため、ポイントが順序通りに測定されない地籍測量などのワークフローに最適です。

従来のアプローチを好む場合は、**ポイント上のコードを使用して特徴コード化された線画を作成するオプション**を引き続き使用できます。

どちらの方法も、フィールドとTrimble Business Centerの両方でFXLで定義されたリッチポイントシンボルと線画を生成します。特徴コードライブラリは、OriginまたはFeature Definition Managerを使用して、好みのワークフローに合わせて構成できます。

ライン上のコードを含むポリラインを保存する主な利点:

- **柔軟なポイント順序**: 任意の順序でポイントを測定し、ラインを簡単に定義します。
- **簡単な編集**: ポリラインやポリゴンにポイントを簡単に挿入または削除できます。
- **ジョブに保存される線画**: ポリラインとポリゴンは、ジョブに直接保存されます。
- **合理化された地籍ワークフロー**: パーセルポリゴンを効率的に作成します。

ライン上のコードを含むポリラインを保存のヒント:

- **新しいライン**をタップして、新しいポリラインを開始します。黄色のハイライトは、現在のポリラインを示します。
- 黄色の線画をタップして青色でハイライト表示し、編集します。次に、ポイントをタップし、タップアンドホールドメニューから**ポイントの挿入**または**ポイントを削除**を使用します。
- **次へ**または**前へ**を使用して、ポリラインを切り替えます。

ノルウェー地籍許容誤差検査における従属調整

地籍許容誤差検査を実行する際、OriginはGNSS測量に関する現行ノルウェー地籍規則を満たす**独立調整**として誤差検出を計算します。Origin 2025.20では、必要に応じて**従属調整**を計算することも可能になりました。

従属調整により、測定値やポイントが完全に独立していない場合や他の測定値や既存のデータポイントにリンクしている場合に柔軟性が向上します。独立から従属に調整を変更するには、**CadastralTolerances.xml**ファイル内の**Tolerances**行の末尾に**independent="false"**を追加します。

詳しくは、[Spectra Geospatial Originヘルプ](#)の**ノルウェー用地籍XMLファイルの設定**のトピックをご参照ください。

新しいBathylogger BL200、およびBL700エコーサウンダー設定ファイル

新しいBathylogger BL200 ESD設定ファイルを使用すると、OriginソフトウェアをBathylogger BL200およびBL700デバイスに接続できます。詳細については、bathylogger.com/support/をご参照ください。

このスタイルシートは、ソフトウェアと共にコントローラのSpectra Geospatial Data / System Filesフォルダにインストールされます。また、[設定ファイルをダウンロード](#) ページからダウンロードすることも可能です。

RTCM座標系メッセージ

Originは、基準局から送信された場合に、RTCM v3.4タイプ1300および1302メッセージからRTK基準局の座標参照系(CRS)を読み取ることがサポートされるようになりました。現在のジョブのグローバル座標系がこれらのRTCMメッセージで受信したサービスCRSと一致しない場合、警告メッセージが表示されます。この機能はコントローラのインターネット接続でのみサポートされます。

原点(0,0)から地上座標を縮尺

プロジェクトまたはジョブの座標系を設定する際、座標フィールドから地上オプションを選択すると、座標系を選択画面に新しい縮尺元フィールドが表示されるようになりました。

縮尺元フィールドを使用して、ジョブを縮尺する基準点を選択します：

- プロジェクト位置オプションを選択すると、ジョブ内のすべてがプロジェクト位置から縮尺されます。ただし、プロジェクト位置自体は縮尺されません。
- グリッド(0,0)オプションを選択すると、ジョブ内のすべて(プロジェクト位置を含む)が0,0座標から拡大縮小されます。

座標系データベース更新

Originとともにインストールされた座標系データベースには、次の機能強化が含まれています。

- ドイツで使用されるETRS89-DREF91(R25)のサポートを追加
- 米国SPS 2022のベータ版を追加
- ナイジェリアで使用されるNGD2012のサポートを追加
- コスタリカで使用される2014.59エポックのCR-SIRGAS全種をサポート
- メキシコの変位モデルを更新
- チリ鉱業向けREDGEOMINの変位モデルを更新
- インドネシアで使用されるSRGI2013に対応しました。
- ペルーで使用されるREGPMOCに対応しました。
- エルサルバドルで使用されるSIRGAS-ES2007.8に対応しました。
- ラトビアで使用されるLKS2020に対応しました。
- チリで使用されるSIRGAS-Chile 2025に対応しました。
- カリフォルニアで使用されるCSRN2025に対応しました。

Originソフトウェアがベトナム語に対応しました。

Originソフトウェアをベトナム語で表示できるようになりました。Originソフトウェアの言語を選択画面でベトナム語を選択するには、Spectra Geospatial Installation Managerを使用してベトナム語の言語ファイルをインストールする必要があります。

音声メッセージの更新

Originが以下の言語で音声メッセージを提供するようになりました。

- イタリア語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、タイ語、ベトナム語

以下の言語の音声メッセージも更新されました。

- 英語、中国語(簡体字版)、中国語(繁体字版)、フランス語、ドイツ語、韓国語、スウェーデン語

Spectra Geospatial Ranger 710コントローラ

Origin 2025.20では、新しいSpectra Geospatial Ranger 710コントローラがサポートされています。Ranger 710はAndroidオペレーティングシステムを搭載しており、7インチのタッチスクリーン、英数字キーボード、内蔵Wi-Fi、Bluetooth®ワイヤレステクノロジー、および世界中の5G LTEセルラWWAN接続(データのみ)を備えています。

解決された問題

- **USBの取り出し**:ソフトウェアが「USBデバイスを取り出しますか?」と尋ねた場合、「はい」をタップすると、エラーが報告される場合があった問題を修正しました。
- **最上位フォルダへのエクスポート**:USBドライブなどのドライブの最上位フォルダにエクスポートできるようになりました。
- **DXFへのエクスポート**:次の問題を修正しました。
 - 特に国際フィートまたは米国測量フィートを使用するジョブで、ポイントやラインの横に表示されるテキストの位置を改善しました。
 - 特徴ライブラリファイルを使用し、ジョブからエクスポートする際に、「**ライン上のコードを含むポリラインを保存**」オプションを選択していると、エクスポートされたラインにOriginで設定された色またはレイヤが適用されませんでした。
- **NZ Fieldbookレポート(Word)**へのエクスポート:WordのNZ Fieldbookレポート形式にエクスポートする際、GNSS受信機の詳細情報に誤りがあった問題を修正しました。更新されたスタイルシートは、[ダウンロードスタイルシート](#)ページから入手可能です。
- **ESRIシェープファイルのエクスポート**:以下の不具合を修正しました。
 - 複数の属性値を選択できる拡張メニュー属性が、エクスポートされたシェープファイルに含まれていませんでした。
 - シェープファイルのエクスポート時に、デンマークで使用されるEUREF-DK15がETRS89(EPSCGコード4258)に関連付けられるようになりました。
- **ラインおよびポリゴンの拡張属性**:拡張メニュー属性データが、計測中のラインやポリゴン全体に正しく反映されないことがあった問題を修正しました。
- **ジョブ修復ウィザード**:ジョブ修復ウィザードから**スキップコピー**オプションを削除しました。この変更により、修復を開始する前に必ずジョブのコピーが取得されるようになりました。
- **既存のIFCポイントを上書き**:IFCファイル内の既存点から新しいポイントを作成する際に、既存点を上書きすることを選択すると、既存点が削除されても、新しい点が削除された点と同じ名前にならなかった問題を修正しました。
- **欠落していたIFCプロパティ**:OriginはIFCファイル内の整数型、ブール型、論理型プロパティ属性の表示をサポートするようになりました。
- **計測した距離**:次の問題を修正しました。
 - マップで2つのポイントを選択し、**計測した距離**画面を開いたときに、**開始高度と終了高度**を設定できませんでした。

- ポイントに**高度**が設定されていない場合、2ポイント間の距離が計算されないことがありました。
- **線形に沿った距離**: **線形に沿った距離**差が誤って測点または距離値を表示していた問題を修正しました。この差は、線形の始点からの斜距離をジョブ単位設定に基づいて正しく表示するように更新されました。
- **路線からの高度オフセット**: 垂直ジオメトリを持つRXL線形の測点およびオフセットに基づいてポイントを入力する際、線形からオフセットしている場合でも高度を入力できるよう改善しました。
- **GNSS 測量における連続地形**: Origin2025.10で報告された問題を修正しました。GNSS測量中にIMU チルト補正を有効 / 無効に切り替えた後、追加の距離ベースの連続地形測定を行おうとすると測定を保存できなかった問題です。
- **水平チルトオフセット**: 水平チルトオフセットポイントの計測時に、必要なデータがすべて揃う前にポイントが記録され、座標のないポイントが生成されることがあった問題を修正しました。現在は、すべての詳細データが揃うまでポイントを保存しません。
- **NTRIPグローバル座標系**: ジョブとマウントポイントのグローバル座標系設定が同一に見えても、「NTRIPマウントポイントのグローバル座標系が現在のジョブと異なります」とOriginが警告することがあった問題を修正しました。
- **機器視準軸誤差補正レポート**: 機器視準軸誤差補正レポートが、機器の設置間で視準軸誤差補正值が変更されたかどうかを正しく確認していなかった問題を修正しました。このスタイルシートは、ソフトウェアとともにコントローラの**Spectra Geospatial Data** / (missing or bad snippet)フォルダにインストールされます。更新されたスタイルシートは、[スタイルシートのダウンロードページ](#)から入手できます。
- **WMSサンプルデータ**: WMSサンプルデータを含むジョブで、データが利用できないと報告される問題を解決しました。更新されたジョブとWMSデータは、[サンプルデータセットのダウンロードページ](#)から入手できます。
- **Survey Basic**: 測量を開始せずに2ポイント間の逆算を行う場合にも方位を計算するようになりました。以前は測量中のみ方位を計算していました。
- **アプリケーションエラー**: ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - Androidコントローラでデバイスに接続している際、Originソフトウェアがバックグラウンドで実行されている場合 (USBケーブルでデータコピー中など) に発生する問題を修正しました。
 - NTRIPキャスターまたはその他のインターネットRTKサーバーへの接続中にキャンセルまたは終了した場合の問題を修正しました。
 - 統合測量中に後方交会を実行する場合。
 - 角観測を行う場合。
 - 水平バンド、全ドーム、または半ドーム枠でスキャンを行う場合。
 - 特徴コードにタイムスタンプ属性が含まれている場合に、制御コードを使用して点を連結する際の不具合を修正しました。


道路

機能強化

ストリングおよび面がブレーキ測点に対応しました

ストリングおよび面のワークフローで、水平線形が変更されても元の測点値を保持したい場合に、ブレーキ測点を含むファイルをサポートするようになりました。

12daファイルの機能強化

- リンクされた12daファイル内の網掛けされたポリゴンがOriginでサポートされるようになりました。マップに網掛けポリゴンを表示するには、マップツールバーで  をタップし、**設定**を選択して**表示グループ**で「**ポリゴンに網掛けをする**」にチェックを入れます。
- 12daファイル内のラインおよびポイントに対する一定の高さ値がサポートされるようになりました。
- リンクされた12daファイル内の線形には、ストリング名の末尾に番号が追加されなくなりました。ストリング名は引き続き連番の接尾辞を使用します。

クロソイド定義の強化

Origin 道路ではクロソイド緩和曲線の定義がさらに柔軟性になりました。すりつけ(トランジション) **長さ**を使用する方法に加え、**Aパラメータ**をサポートし、スパイラルの形状を定義する代替方法を提供します。この機能は**交点(PI)**と**長さ**の入力方法の両方で利用可能です。

韓国のクロソイド

Trimble AccessRoadsでは、韓国クロソイド方式がサポートされました。この方式では、測量用と建設用の中心線を分けて使用し、線形の同心測点設置を実現します。この更新により、韓国のGeosystems社が開発した地域向けソフトウェアGeoTurvoで生成された.RXLファイルから、道路線形をインポートおよび定義できるようになりました。

水平線形を定義するには、**交点(PI)**入力方法を選択し、**韓国クロソイド**すりつけタイプを選択します。**交点**の北距と東距を入力します。次に、**すりつけ|円弧|すりつけ曲線**タイプを選択し、現在のフィールドを使用して**建設中心線すりつけ長**と**建設中心線半径**を指定します。

縦断線形の開始点は、平面線形の開始からの距離、または鉛直交点(VPI)の測点によって定義できます。

解決された問題

- **ストリング上のステーション**: ストリング上のステーションを測設する際、Originでは、追加点を測設する場合に最後に使用したステーションが保持されるようになりました。
- **路線からの高度オフセット**: 垂直ジオメトリを持つRXL線形の測点およびオフセットに基づいてポイントを入力する際、線形からオフセットしている場合でも高度を入力できるよう改善しました。
- **12da面**: 12daファイル内の面で**斜距離差分が「？」**と表示されることがある問題を修正しました。
- **12daのnull値**: Nullの高度値が、**？**と表示されるようになりました。以前は**0.0**と表示されることがありました。

サポートされている機器

Originソフトウェアのバージョン2025.20は、下記のソフトウェアおよびハードウェア製品との通信に最適です。

注意 - 注意 - 最高のパフォーマンスを維持するため、ハードウェアには常に使用可能な最新のファームウェアをインストールしてください。

サポートされているコントローラ

Windows端末

Originソフトウェアは、以下のWindows®デバイスで実行可能です:

- Spectra GeospatialRanger 7データコレクタ
- Spectra GeospatialST10またはST100タブレット
- 対応 サードパーティー製タブレット

サポートされているサードパーティー製タブレットの詳細については、[Origin ヘルプポータル](#)の[サポート 公示](#)ページからダウンロードできるサポート公示 **Origin on 64-bit Windows 10 & 11**を参照してください。

Android端末

Originソフトウェアは、以下のAndroid™端末上で実行されます:

- Spectra Geospatial Ranger 710データコレクタ
- Spectra GeospatialRanger 5データコレクタ
- Spectra Geospatial MobileMapper 6/ハンドヘルド
- Spectra Geospatial MobileMapper 60/ハンドヘルド
- Spectra GeospatialSP30/ハンドヘルドGNSS受信機(Origin受信契約の場合のみ)
- Spectra Geospatial FOCUSデータコレクタ

ヒント - ヒント - Originは、**MobileMapper 6およびMobileMapper 60**ハンドヘルドの、**縦長モードと横長モード**の両方で使用することができるように設計されています。縦長画面およびAndroid OSを使用できるようにするためにユーザインターフェースが多少異なっています。詳細については、[Originヘルプ](#)の[Originワークスペース](#)のトピックを参照してください。

注意 - 注意 - **Spectra Geospatial SP30**ハンドヘルドGNSS受信機は、Originサブスクリプションでのみ使用することができます - Origin永久ライセンスでは使用することはできません。SP30はGNSSのみの測量のために設計されており、トータルステーションへの接続はサポートされていません。OriginでSP30を使用する方法については、下記の[サポート対象のGNSS受信機](#)セクションを参照してください。

サポート対象の一般機器

Originを実行中のコントローラに接続可能な従来型機器は以下の通りです:

- Spectra Geospatial FOCUS® 50トータルステーション
- Spectra Geospatial FOCUS 35/30トータルステーション
- サポート対象のNikonおよびサードパーティー製トータルステーション

Originソフトウェア内で使用可能な機能は、接続された機器の型式およびファームウェアバージョンによって異なります。Spectra Geospatialでは、本バージョンのOriginを使用されるに当たって、入手可能な最新のファームウェアに機器をアップデートすることをお勧めします。

サポート対象のGNSS受信機

Originを実行中のコントローラに接続可能なGNSS受信機は、以下の通りです:

- 慣性計測ユニット (IMU) 内蔵型 Spectra Geospatial GNSS受信機: SP100
- Spectra Geospatial内蔵GNSS受信機: SP85, SP80, SP60
- Spectra GeospatialモジュラーGNSS受信機: SP90m
- Spectra Geospatial SP30ハンドヘルドGNSS受信機

注意 - 注意 -

- 上記のサポートされているコントローラセクションで説明されているように、**Spectra Geospatial SP30ハンドヘルドGNSS受信機**は、Origin利用契約でのみ使用することができます(永久ライセンスでは使用できません)。Originで使用する場合、SP30は:
 - の外部アンテナには接続できますが、他のGNSS観測には接続できません。
 - エコーサウンダーやレーザ測距儀などの他の測量機器に接続することができます。
 - GNSS RTK 解としてのみ使用することができ、以下の精度を提供します:
 - センチメートル精度 - 水平: 10mm、鉛直: 15mm
 - デシメートル精度 - 水平: 70mm、鉛直: 20mm
 - サブメートルの精度 - 水平: 300mm、鉛直: 300mm
 - RTXでは使用できず、後処理にも使用できません。
 - カメラ内蔵の電子気泡管はサポートされていません。
- Spectra Geospatial OriginソフトウェアがSpectra GeospatialGNSS受信機と通信する際に使用する通信プロトコルは、Survey Proソフトウェアを使用する同じ受信機のすべての利用可能な特徴には対応していません。詳しくは、**Origin ヘルプポータル**の[サポート 公示 ページ](#)からダウンロードできるサポート 公示 **SP60, SP80 and SP85 Receiver Support with Spectra Geospatial Origin**を参照してください。

インストール情報

ライセンス要件

Origin 2025.20をインストールするには、一般観測 / 基本観測アプリのほか、使用したい各Originアプリのライセンスが必要です。

- **永久ライセンス**

永久ライセンスは、コントローラにライセンスされます。コントローラには、**1 12月 2025**まで有効なOrigin Software Maintenance Agreementが必要です。

- **受信契約**

受信契約ライセンスは、個々のユーザーに割り当てられます。受信契約ライセンスで使用する際、サポート対象の任意のコントローラにOrigin 2025.20をインストールすることができます。

既存のコントローラに永久ライセンスがあるが、そのコントローラを廃止して新しいコントローラに交換したい場合は、既存のコントローラから永久Originライセンスを放棄して、新しいコントローラに移行できる場合があります。

詳しくは、[Origin ヘルプポータル](#)の[ソフトウェアライセンスとサブスクリプション](#)をご参照ください。

アカウントをお持ちでない場合 ソフトウェアをお試しいただけます

必要なライセンスをお持ちでない場合は、一定期間、ソフトウェアを試すことができます。



オプションは以下の通りです:

- サインインして利用契約を使用できない場合、または永久ライセンスを購入したがコントローラにまだ割り当てられていない場合に備えて、Origin用の**48時間ライセンス**を作成します。
- コントローラに有効な永久ライセンスがない場合、Originの**30日間のデモライセンス**を作成します。このタイプの一時ライセンスは、対応WindowsおよびAndroidコントローラで利用できます。
- コントローラに有効な永久ライセンスがあるものの、試したい特定アプリのライセンスがない場合は、特定Originアプリの**30日間の試用ライセンス**を作成します。このタイプの一時ライセンスは、対応Windowsコントローラでのみ使用できます。

詳しくは、[Origin ヘルプポータル](#)の[一時ライセンスのインストール](#)を参照してください。

Originのインストールまたはアップグレード

ソフトウェアをコントローラにインストールするには、コントローラのオペレーティングシステムに応じて正しいSpectra Geospatial Installation Managerを使用します:

- Spectra Geospatial Installation Manager Windows用 
- Spectra Geospatial Installation Manager Android用 

詳しくは、[Origin ヘルプ](#)の[Originのインストール](#)を参照してください。

注意 - 注意 - 旧バージョンのOriginを使用して作成されたジョブ(.job)ファイルは、Originの最新バージョンで開いた際に自動的にアップグレードされます。アップグレードされたジョブは、旧バージョンで開くことはできなくなります。詳しくは、[Origin ヘルプ](#)の[最新バージョンのOriginで既存ジョブを使用する](#)を参照してください。

学習リソース

Originソフトウェアの機能とソフトウェアを最大限に活用する方法の詳細については、以下のリソースを参照してください。

Originヘルプポータル

Spectra Geospatial Originヘルプポータルは、[Spectra Geospatialヘルプポータル](#)の一部で help.spectrageospatial.com/origin/からご覧いただくことができます。Originヘルプのすべての内容を14言語で提供しており、Origin YouTubeチャンネルの動画へのリンクも掲載されています。

Spectra Geospatial Originヘルプポータルの[ダウンロード](#)領域には、以下を含む有用なリソースへのリンクを掲載しています:

- サポート 公示
- ソフトウェアとユーティリティ
- テンプレートファイル
- スタイルシート

- サンプルデータ
- PDFガイド

Spectra Geospatial Originヘルプポータルは、インターネットに接続されている任意のコンピュータから、Originソフトウェアをインストールすることなく表示できます。また、携帯電話からのアクセスや、オンボードヘルプをインストールしないことを選択した場合でも、Originを実行しているコントローラからご覧いただくことが可能です。

Originヘルプ

Originヘルプは、Spectra Geospatial Installation Managerで**言語とヘルプファイル**チェックボックスを選択すると、ソフトウェアとともにインストールされます。インストールされているヘルプを表示するには、Originソフトウェアで☰をタップし、**ヘルプ**を選択します。Originヘルプが開き、Originソフトウェアで現在表示されている画面のヘルプピックに直接移動します。

Spectra Geospatial Origin現場ソフトウェアYouTubeチャンネル

Spectra Geospatial Origin現場ソフトウェアのYouTubeチャンネルでは、便利なソフトウェア機能を紹介する多数の動画を公開しています。

新しい動画は定期的に投稿されるため、OriginYouTubeチャンネルページの**登録**をクリックして、新しい動画が公開された時に通知を受け取るようにしてください。

法的情報

Trimble Inc.

www.spectrageospatial.com

Copyright and trademarks

© 2025, Trimble Inc. All rights reserved.

Trimble, the Globe and Triangle logo, ProPoint, Spectra, and Trimble RTX are trademarks of Trimble Inc. registered in the United States and in other countries. Access, IonoGuard, VISION, and VX are trademarks of Trimble Inc.

For a complete list of legal notices relating to this product, go to help.spectrageospatial.com/origin/ and click the **Legal information** link at the bottom of the page.